

# 生島 国宜 展 | Ixima Kuniyosi

2014年7月5日(土) ~ 8月9日(土)

開 廊： 12:00 ~ 19:00 (日曜、月曜、祭日：休廊)  
会 場： ミヤケファインアート  
〒135 - 0024 東京都江東区清澄 1-3-2-5F  
問合せ： 03-5646-2355  
info@miyakefineart.com  
担当： 増子 由香



オープニング・リセプション： 7月5日(土) 17:00 より

私が生島君の作品を初めて目にしたのはもう5年ほど前の事、福岡の公共の屋外空間で行われたイベントで、彼が絵画の公開制作をしているところであった。

正確なブラッシュストロークで一気呵成にラインを引いた人物像は、それだけで一つの作品とって良い程の見事な出来を示していた。しかし制作はそれでは終わらない。その上から更に大きな筆致で全体を別の色で覆っていき、それまでとは全く違って混沌とした空間となり、更には形が徐々に失われていき、ついには何もなかったかのような色面が現れ、それが「制作」の「完成」であったことを印象的に記憶している。

その後、生島君の作風は徐々に変化し、混沌とした色面のせめぎあいがかだんだんと整理され、近作には大きな転換、即ち以前のいったん描いてはそれを塗りつぶす、という作業工程は影を潜め、スッキリとした線が存在を主張する具象画へと移行したのであった。

彼の活動は単に絵描きとしてだけでなく、ステージでのパフォーマンスにも及んでいる。今年の3月にはダンスパフォーマンスにパフォーマーとして登場。冒頭に書いたライブ・ペインティングにも通じるところであろう。

絵画作品の発表は今年の1月に地元福岡の画廊で行った個展、3月からの私のスペースでの個展と続いたが、何れの出品作も画面上に実にスッキリと Figure がたち現れ、曖昧さを感じさせる色面は微塵もない。それを迷いのない筆致で描きあげる力量は尋常ではない。

フランス新古典主義の巨匠アングルが「線を引きなさい…若者よ」と若きドガに助言を与え、ドガはその教えを終生大事に守り通した、というエピソードを思い起こさずにはいられないのが生島君の現在の作品だといえよう。

山根康愛 (ヤマネアートラボ主宰、元北九州市立美術館学芸員)

ミヤケファインアートでは、生島国宜による初めての個展を開催いたします。本展では2013年から2014年にかけて制作したアクリル絵画作品を展示致します。これまで作家は人間の根源的な要素、尊厳なるものを表現しようとしてきました。生島の描く人々の表情にはなんとも言えない不思議な雰囲気が漂い、「空虚の奥に佇む充実感なるものを捉えようとしているのかもしれない」と作家は言います。今回は、自身のテーマをさらに深めた新作をここ東京で制作し、同時に展示致しますので、是非この機会にご高覧くださいようお願いいたします。

生島国宜は、1980年福岡県生まれ。2003年武蔵野美術大学油絵学科卒業。2006年より福岡を中心に定期的に個展・グループ展に参加。絵画制作に留まらず、ライブペイントや前衛芸術パフォーマンスを展開。その他、インスタレーション、立体、映像、東洋思想研究などジャンルレスな活動を展開している。

## MIYAKE FINE ART

株式会社ミヤケファインアート

1-3-2 Kiyosumi, 5th Floor, Koto-ku, Tokyo 135-0024 Japan  
135-0024 東京都江東区清澄 1-3-2-5F  
Telephone +81-3-5646-2355 / Facsimile +81-3-5646-2356  
info@miyakefineart.com / www.miyakefineart.com